

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

25

2023 AUGUST

大和川の
きれい化を目指して



楽しく植栽を行う地域の子どもたち



活動日には100人以上が参加

力し、2時間ほどの作業で河川沿いの花壇は彩り豊かになりました。

秘訣は花を維持する体制づくり 工夫を重ねてつくりあげた景観

同会は平成16年に生駒市からの依頼を受け、河川空間の景観向上のため、上町自治会を中心に地域団体が結束して発足しました。当初は、清掃活動とともに、草刈りやコスモスの植栽を行っていました。その後、河川敷に遊歩道が整備され、現在は上町自治会や上町老人クラブ、奈良交通、医療法人あすか会、県立奈良北高校などの団体が協力して、遊歩道花壇の植栽活動や清掃活動を行っています。

「実は数年前まで、あまり花がきれいに咲いていなかったんです」と景観を維持する難しさについて振り返るのは、会長の中本尚広さん。「長く活動を続けるなかで管理が難しくなり、花を植えた後はほったらかしの状態の年もありました。夏の水不足に耐えられず、せっかくの花も草で埋もれてしまう。『頑張っただけでいい』と方法を模索しました。』定期的に



河川敷の花壇にマリゴールドを植栽する会員の皆さん

水やりや花がら摘みを行ったり、防草シートを導入したり、さまざまな試行錯誤を重ねながら、綺麗に花が咲く状態を保てるようになりました。そんな同会が行う清掃・植栽活動の中核を担っているのが、約20名の「富雄川環境美化プロジェクト」のメンバー。そのマネージャーを務めているのが、山中敏弘さんです。「近隣地域の自治会長さんに『富雄川の両岸、いつの間にかとても綺麗になった』と言われた時はとてもうれしかったです。人手に限りがある中で、いかに無理なく続けていく体制をつくれるかが重要だと考えています。ローズマリーや芝桜など、あまり手がからない花を選んでいける体制をつくる計画もあるんです。今後、活動範囲を広げる計画もあるので、もっと手間がかからない方法を追求していきたいです」と熱い思いを語ります。会の活動は県内でも評価され、「令和4年度きれいな奈良県づくり功労賞川のきれい化部門」を受賞しました。

「地元の川へ恩返しをしたい」 出会いやつながりを生む活動

副会長の西本幸一さんは、昔から地域で暮らしてきたメンバーの一人。「富雄川はまちの象徴的な存在」だと話し



「子どもの頃、富雄川は生活に密着した場所でした。牛を飼育する農家が多く、土手の草を刈ってエサにしたり、生えていた渋柿をみんなで分けたり…。そういう環境が失われ、寂しさを感じていましたが、活動を通じて、改めてこの川に恩返しをしたいという気持ちが芽生えました」。

顧問を務める西本和興さんは「現在活動を行っているのは、両岸約1.8km。これだけ広い区域を管理することに誇りを持っています。子ども会に声をかけ、若い世代が参加してくれるようになったことも大きな転機。この活動の思い出が、大人になってからの地域愛につながれば、うれしいです」と地域の未来を見据えて活動を続けています。

子どもから大人まで幅広い世代が協力し合い、みんなで楽しみながら地域貢献ができる機会をつくりだす同会の活動。季節の花で彩られた富雄川は、これからも地域に愛される川として、行き交う人々の心を癒やしていきます。

富雄川環境美化推進協議会 (富雄川)



副会長
西本 幸一さん



会長
中本 尚広さん



顧問
西本 和興さん



富雄川環境美化
プロジェクトマネージャー
山中 敏弘さん

世代を超えて愛される川に 地域でつなぐ植栽活動

上町自治会を中心に、地元の企業や各種団体で構成された「富雄川環境美化推進協議会」。地域にとって大切な「富雄川」の環境美化・保全に努めています。

地域で協働して活動 年に2回の一斉植栽

奈良県北西部に位置する生駒市。このまちの身近な自然として親しまれてきた富雄川は、生駒市北部くろんど池に源を発し、奈良市、大和郡山市を経て、大和川に合流する一級河川。この富雄川の景観向上のために、清掃・植栽活動を実施しているのが、富雄川環境美化推進協議会の皆さんです。

台風一過となった初夏の朝、生駒北コミュニティセンターには子どもから大人まで100人以上の参加者が集まっていました。この日は生駒市の「地域が育む川づくり事業」の一環として、年に2回(6月・11月)同会の主導のもと実施している「富雄川クリーンキャンペーン」の開催日。真弓橋から上村大橋までの河川敷遊歩道(約900m)の清掃と、花壇へのマリゴールドの植栽を行います。生駒市長と会長の西本さんの開会の挨拶で活動がスタートすると、皆さん軍手をはめ、道具を手に持ちそれぞれの担当場所へ。捨てられたゴミを拾い、生い茂った草を刈る手つきは慣れたものです。花壇を整えると丁寧に花を植えていきます。

「この花はあそこに植えよう」と、たくさんの鮮やかなオレンジと黄色の花苗を、協力して運ぶのは地域の子どもたち。幅広い世代が和気あいあいと協



組合長
大植 正さん



副組合長
高鉾 利幸さん



奈良県漁業協同組合連合会
専務理事
若林 秀夫さん

大和川水域河川漁業協同組合(曾我川)



参加者みんなが笑顔になる「アユの放流体験」

「アユの放流体験」で 楽しくはぐくむ河川美化意識

毎年地元の幼稚園・保育園児を対象に、環境教育を目的とした「アユの放流体験」を実施する「大和川水域河川漁業協同組合」。環境保全の大切さを伝えることで大和川の美化に貢献しています。

未来を見据えた「環境教育」 体験を通して川の大切さを伝える

大和川は、奈良県の笠置山地を源とし、生駒山地と金剛山地の間を流れて大阪平野に流れる全長約68km、177本の支川を保有する水系。磯城郡川西町に拠点を置く「大和川水域河川漁業協同組合」は、毎年6月、大和川の支川の一つ・曾我川で、地元の幼稚園・保育園児を対象に、環境教育を目的とした「アユの稚魚の放流体験」を行っています。

今年も2園の園児、約40名が参加。河川敷に集まった園児の前に3、000匹余りの活きの良いアユの稚魚が用意されました。まずは水槽に入った稚魚とのふれあい体験。自分たちの手よりも少し大きな稚魚を見て、最初は「お魚さわったことない、こわい！」と言う子もいましたが、組合の皆さんの「さわられる子はさわり〜」やさしくつかんだってな〜との声かけで、少しずつさわられるように。「かわいい〜」「にゅるにゅるしてる〜」「大きくなったらいいなあ」とみんな楽しそうにふれあっています。

そして、いよいよメインイベントの「アユの放流体験」。階段を下りて川辺まで行き、バケツに入った数匹の稚魚をやさしく放流します。子どもたちにとってはドキドキワクワクの初体験。「いってらっしゃい」「また会えたらいい

副組合長の高鉾利幸さん。事前の水位の計測、放流場所の精査に始まり、放流では子どもたちを親身にサポートするなど、川への造詣が深い組合の皆さんならではの、行き届いた安全への配慮で活動は実現しています。

保育園の先生からも、「園内ではグッピーを飼っていますが、子どもたちができるのは、エサやりだけ。生きていく魚にさわって、身近な川に放流するという貴重な機会をつくっていただき、とてもありがたいです」と活動への感謝の言葉が。先生や保護者の方々の「毎年楽しみにしています」という声は組合員のモチベーションにつながっています。

当たり前前の行動が美化への第一歩 大人になっても記憶に残る体験を

同組合の皆さんが、長年このアユの放流学習を続ける中で喜びを感じたのは、10〜20年前にイベントに参加した子が、大人になっても放流体験を覚えてくれていたことだそうです。「大和川という存在がこの地域の暮らしになくてはならないということ、次世代に伝えるのも私たちの役目です。子どもたちにとってこの体験をしっかりと記憶に留めておいてもらうためにも、私たちは大



アユとのふれあいも大盛り上がり!



組合員の説明を熱心に聞く子どもたち

ね」と放流を終えた後はみんな達成感いっぱい表情でした。その後は、大和川河川事務所の方との協力で環境に関する紙芝居を鑑賞す

る時間が設けられ、子どもたちは川を汚さないために3つの工夫を学習します。食べ物を「のこさない」「ふきとる」「ながさない」ことを約束し、今日放流した魚たちは、きれいな川でしか生きていけないことを学びました。

川とふれあう機会を子どもたちへ 大和川に興味を持つきっかけを!

同組合がアユの稚魚の放流体験を始めたのは、平成14年から。大和川の大切さを子どもたちに伝え、きれいな大和川を取り戻せるようにという思いでスタートしました。

「活動を始めた頃には、子どもたちが川で遊ぶという光景は全国的に減っていたと思います。川に近づいたら危険という認識は正しいですが、だからといって、川と全くふれあわないというのも寂しい。子どもたちが実際に川魚にふれる機会もなかなかないと思うので、私たちにできることがあればと活動を続けてきました」と話すのは、





代表
高峯 幹男さん

竜田川流域の 美しい街まもり隊 (竜田川)



竜田川の側道にあるごみを拾う会員の皆さん

自分たちの街は自分たちで美しく！ 清掃・植栽活動で「きれいな地域づくり」に貢献

身近な道をきれいにしたいという思いから発足した「竜田川流域の美しい街まもり隊」。
会員同士が連携・協力しながら、精力的に清掃・植栽活動を行っています。

ゴミのない竜田川に 協力しながら楽しく活動

生駒市内から平群町内を流れ、斑鳩町内で大和川に合流する1級河川、竜田川。古くから、詠歌の名所として知られ、地域の人々からも桜の名所として愛されています。この竜田川の側道をメインとした、近鉄生駒線菜畑駅周辺から第二阪奈道路分インターチェンジ間のごみ拾い活動と、菜畑駅高架下北側の川沿いにある「中菜畑はな園」(約290㎡)の除草・植栽活動をそれぞれ月に2回程度行っているのが「竜田川流域の美しい街まもり隊」の皆さんです。

ある夏の活動日、集合場所の行基橋に約10名の会員の皆さんが集まってきました。代表の高峯幹男さんが「本日の活動内容」を伝え、新しく活動に参加する会員を紹介。「今日からよろしくお願いします」という挨拶に、皆さん拍手で歓迎します。あたたかい雰囲気の中、活動が始まりました。

まずは、2〜3名で1つの班をつくり、4コースに分かれて、ごみ拾い活動を開始。地面や植え込みには、数メートル歩くとたびに、缶や瓶、食品の袋、タバコの吸い殻などが落ちており、各会員のごみ袋は徐々にいっぱいになっていきます。会員の一人、緒方雄二さんは「地域のために自分ができることはないかと考えていた時に、この団体の活動を知り参加を

てくれるだけでもありがたいです」と口をそろえます。
「活動に賛同してくれる人はいても、参加してくれる人、続けてくれる人は中々いません。子育てなどで活動を続けるのが難しくなった会員もいます。それでも地域を愛する気持ちは同じ。誰でも『なにか活動したい』と思った時に、集まれる場所になれたら」と話す高峯さん。活動後、美しく手入れされた花壇の前で、集めたゴミをまとめる会員の皆さんは充実した表情です。

「昔はこのゴミの量も、倍はあったんですよ」と、活動当初の状況と比較すると、ごみのポイ捨てや犬のふん放置も減り、地域に美化意識が浸透してきたことを実感するという皆さん。「私ら、もう年々から」と言いつつも、その足取りは軽やか。「自分たちの街は自分たちで美しくしよう!」をモットーに、一人ひとりが支え合って続けてきた同隊の活動は、竜田川沿いの美しい景観づくりに欠かせないものとなっています。



「中菜畑はな園」の除草作業の様子



みんなで楽しく元気に活動

決めました。仕事ではあまり体を動かさないで、運動をする良い機会になり、

地域に役立つ活動もできて、一石二鳥です」と爽やかな笑顔で話します。
ごみ拾いの終着点は、「中菜畑はな園」。河川敷を散歩する人々の憩いの場であるこの場所で、ヒラドツツジ、サツキ、ツバキなどの低木やコスモス、マリーゴールド、ナツスイセンなどの花の水やり、その周辺の除草を行います。会員同士が声をかけながら、効率良く作業を進め、あつという間に花壇がきれいに整えられました。

「地域のために」という思いを行動に

同隊発足のきっかけは、代表の高峯さんの「退職後は何か一つでも世の中のためになることをしたい」という思い。平成19年に、一人で国道の歩道や竜田川の側道の草刈りを始めましたが、一人での活動に限界を感じ、「団体を結成しよう」と思い立ちました。平成20年に入り、地域の自治会の総会で、「ボランティア団体を立ち上げて、除草・清掃活動をした

道168号バイパスの新設工事が行われた際、竜田川とバイパスの間にできた空地でしたが、雑草が伸び放題で放置されていました。それを見かねた会員からの提案により草刈りを始めることに。さらなる景観向上を目指し花や木も植えるようになりました。その後生駒市市民活動推進センター(ららぽーと)等の支援を受けながら、土質改良を図るなど、多くの努力が実を結び、近年は季節が巡るたびに花々が咲き誇るように。これらの長年の活動が評価され、同隊は平成28年度に「グリーン・グリーン実践者表彰」を受けました。

自分たちでできることを地道に 会を越えて美化意識の高め合い







「きれいな地域づくり」への思いは活動だけでなく日常でも。女性会員の皆さんは、近所の方々と同隊のごみ拾い活動についてよく話をするそうです。「そうすると、『私たちが気をつけるね』と言ってくださいます。ごみに関する意識を変え



川を汚さないためにできることがあります！

水が汚れる原因の半分以上は生活排水です。川をきれいにするためには、下水道への接続や合併処理浄化槽への転換等の生活排水処理対策が必要です。また、その他にも私たち1人1人が日常生活でできることがあります。

魚がすすめるようなきれいな水にするために
必要な水の量は浴そう何杯分？ (浴そうの水は300ℓ/杯として計算)

しょう油 15ml (大さじ1杯)	1.5杯	
日本酒 20ml (おちょこ1杯)	2.5杯	
ラーメンの汁 200ml (おわん1杯)	3.5杯	
ビール 180ml (コップ1杯)	8.0杯	
牛乳 180ml (コップ1杯)	9.0杯	
使用済天ぷら油 500ml (なべ1杯)	330杯	

残さない

食事は食べる分量だけ作り、残らないようにしましょう！



ふき取る

食器やフライパンなどの汚れはふき取ってから洗いましょう！



流さない

食べ残しや残りクズを直接流さないようにしましょう！



「地域の河川サポート事業」参加団体募集！

～河川美化活動を支援します～

地域による河川美化活動を育成し、憩いと潤いのある河川空間を創出するため、地域住民の皆様が主体的に実施される河川美化活動（河川の清掃・草刈・花の植栽等）を支援します。

3つのプログラムがあります。活動内容にあったプログラムでご参加ください！

憩いの川づくりプログラム



活動内容

草刈り
活動要件 1回の参加人数10人以上
年間1回以上
延長100m以上
刈り取り高10cm以下
刈草を河川に流さないこと
刈り残しがないこと

支援内容 面積に応じた報償金の支給 (㎡×9円)
傷害・賠償責任保険の加入
サインボード(看板)の設置

彩り花づつみプログラム



活動内容

花の植栽・維持管理
活動要件 1回の参加人数3人以上
年間1回以上
支援内容 面積に応じた報償金の支給 (㎡×320円※)
※花苗の植えつけ及び
維持管理の場合
傷害・賠償責任保険の加入
サインボード(看板)の設置
花苗等の物品の支給

ボランティア支援プログラム



活動内容

清掃
(軽微な草刈りを含む)
活動要件 1回の参加人数5人以上
年間1回以上
延長50m以上
支援内容 報償金の支給または、
傷害・賠償責任保険の加入

詳しくは県水資源政策課水循環政策係までお問い合わせください。

TEL.0742-27-8489 URL. <https://www.pref.nara.jp/17237.htm>